

北東から南西方面（小月方面）を望む



下大野城を知る

～郷村の城郭～

【城郭データ】

城郭銘：下大野城（しもおおのじょう）

時代：戦国時代（推定）

主な城主：不明

主な遺構：竪堀、切岸、堀切（横堀）

登山条件：下大野公会堂から山道あり

所在地：菊川町大字下大野

豊かな大地に支えられた村落率いたリーダーには集団を守る知恵と城郭も必要とされた。

【下大野城の概要と特徴】

菊川町の南東側、菊川盆地が木屋川に向かって閉じる端にある丘陵に山城が造られている。城は標高 40m 程の小さな丘の上にある。城の規模は小さく砦に近い。ただし、その形からは館とも見ることができる。

規模が小さいながらも機能が詰まった下大野城は、木屋川周辺に広がる豊かな耕作地を持つ集落（郷村）が、自分たちの集団を守るために造った城とも考えられる。



【下大野村地下図（山口県文書館所蔵）】

元文四年（1739年）の「大野村由来」に下大野の矢柄に城山あり」との記載があるほか、享保十四年（1729年）の「下大野村地下図」にも「城山」として記されています。



下大野城のあるところ～菊川盆地東端の城

大野地区は、中世は大野庄と呼ばれた地域であり、木屋川沿いの広い平野を基盤に豊かな農業生産を有した集落が存在したと思われる。江戸時代に清末藩領となり、現在の下大野と上大野に分かれた。

【アクセス】

まずはアブニールへ。県道 265 号線で左折、大野神社前から集落内公会堂に駐車。

徒歩で集落墓地を過ぎ更に登る 5 分程の道程。



A. 山城の国（現京都府）岩清水八幡宮を勧請した大野八幡宮と、春日神社とを合祀した現在の大野神社。



B. 江戸時代、下大野村では清末藩主により川狩が行われていた。光林寺は九代藩主毛利元純が立ち寄ったとされる。



C. 詳細は不明であるが、下大野城の南麓には石棺（下大野石棺）があったとされ、古来からの人々の営みを物語る。



D. 下大野城は矢柄山の東麓にある。元々、矢柄山に城（城山）があったとされ、下大野城は支城の可能性もある。





【下大野城の縄張り】

下大野城は独立した丘陵から東側に張り出した台地上に造られている。台地から東側は平野に向けて急斜面となる。階段状に曲輪が連続する南東側を正面し、丘陵地形が伸びる西側が搦手となる。搦手方面が弱点であるため、横堀と豎堀、堀切を連続させ厳重に防御する。特に横堀から連続する豎堀は他ではあまり例を見ない造りで見どころの一つ。主郭の周りは切岸と自然地形の急斜面、加えて横堀が巡る形で、主郭に対する守りは強固である。

敷地総面積が 4,200 m²程と小さいながら嚴重な作りは、戦国時代から桃山時代へ時代が移る中で発展した居住できる城郭の様相を見せる。

下大野城を攻める



A：主郭の北西側をL字状に巡る横堀。周溝のような造りは館の様相に通じる



B：横堀から斜面下に延びる豎堀が無数に設置される。畝状豎堀とも見れる。



C：南側の曲輪から仰ぎ見た主郭。比高があり、見た目も圧倒させる効果があった。



D：主郭の縁から下はかなりの急斜面を持つ切岸。登坂が困難で堅い守り。

もっと下大野城を知りたい…

【参考となる資料】

- ・「山口県中世城館遺跡総合調査報告書 - 長門国編 -」(2017) 山口県教育委員会
- ・「きくがわもっと知りたいガイドブック」(2012) ふるさとづくり推進協議会ふるさと再発見事業作業部会
- ・「きくがわもっと知りたいMAP」(2018) 菊川地区まちづくり協議会「地域活性部会」
- ・「菊川町史」(1970) 菊川町教育委員会

【その他のご参考】

- ・ふるさと再発見作業部会さま
2008年設立。古文書などから菊川の山城を調査し発見。その成果を冊子やガイドツアーなどで情報発信しています。ご連絡は、菊川総合支所にお尋ねください。



ふるさと再発見部会さまにより菊川町域の山城が調査、整備されています。



ガイドブックやマップにはその他の山城も掲載されています。